

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0870300662		
法人名	有限会社イノセ		
事業所名	グループホームASUKA		
所在地	茨城県土浦市神立町673番地の62		
自己評価作成日	2020年4月20日	評価結果市町村受理日	2020年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JirgvsyoCd=0870300662-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JirgvsyoCd=0870300662-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2020年7月1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームASUKAは神立駅周辺の住宅街の一角に位置し、家庭的な平屋の造りとなっています。車椅子でも5分以内の場所に神立コミュニティーセンターやスーパーマーケットがあり、希望される入居者の方は職員が付き添い、イベントに参加されたり、散歩がてら買い物に行かれたりされるように努めています。敷地内では入居者の趣味の延長として野菜や花作りを楽しんで頂き、意欲の向上に努めています。利用者一人ひとりの今に寄り添うケアを大切にすると共に毎日、旬の食材を使いパンスの良い食事の提供を心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

住宅街にある平屋のホームで、コミュニティーセンターやスーパーに近く、地域に溶け込んだ生活を送っている。利用者が庭で花や野菜作りを楽しみ、犬や猫に癒され、会話を楽しみ笑いが絶えない日常生活が送れるよう支援している。特に、新型コロナウイルス感染予防の為に外出や面会などに制限がある今、室内での運動や庭での外気浴でストレスがたまらないよう、体力が低下しないようにと配慮されている。食事は庭の野菜も使い、残したものを確認して利用者の好みや食べやすさを把握している。食事が量が増えたり、血糖値が下がった方など、生活改善にもつながった支援ができています。

\*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に入ってすぐのところや事務所に掲げ職員は理念を共有し、実践につなげている。	理念を玄関横、事務室に掲示し、職員が朝夕の申し送り時に確認できるようになっている。また、ミーティング時には理念に関する話もし、意識できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方に来ていただいたりしながら事業所自体が地域の一員として日常的に交流すよう努めている。	歌とリズム体操が月4回、ギターが月1回と定期的なボランティアの訪問や、コミュニティセンターの行事に参加していたが、新型コロナウイルス感染予防の為、全てが中止となっている。近所の方が相談に来たり、野菜や花を届けてくれるなど、地域との交流もできている。訪問調査日も、お裾分けのグラジオラスが玄関やホールに飾られていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開き地域の代表の方と話しあい、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かせるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の方にも参加して頂き、地域の代表者の方と話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に役立っている。	ブロック長(区長)、民生委員、行政、利用者の参加で開催。利用者の状況や行事報告をし、意見交換を行っている。家族には、お便りなどで参加を呼びかけているが、出席は難しい状況であり、会議報告を送付している。最近では、新型コロナウイルス感染予防の為、市と協議の上、文書での会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者の方とは定期的に運営推進会議で意見を頂いたり、電話、FAX等を通じて事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議への出席や、電話やFAX等での相談など担当者との関係は良好に構築されている。生活保護受給者の入所では、生保担当と連携を図っている。社協からは、介護相談員が派遣されて毎月利用者の話を聞いてくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践については社内研修を行ったりしながら正しく理解し、実践している。	現在、異食行為がある方に対し、家族の同意を得て夜間のみミトンを使用している。2月には外部研修を受講して伝達研修を行い、職員の意識向上を図っている。車いすの空気が抜けていたことがあり、定期的に点検を行い、スムーズに動けるようにしている。	同意書に具体的な拘束内容の記載はあるが、期間の記入がない。改めて様式について検討し、協議内容なども記録するようにして頂きたい。自己点検シートを活用した職員の更なる意識向上も検討していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、虐待が見過ごされることが無い様に注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間で日常生活自立支援事業や成年後見制度について話し合う機会を持ち、それらを活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される時、利用者の方や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族の方などが自由にホームを訪ね意見や要望を話せる環境づくりをしている。面会時に直接話をしたり、問いかけを心がけている。	『グループホームASUKA便り』に個人の状況を記し、2ヶ月に1回家族に送付してホーム内での様子を報告している。面会時に話を聞くようにしているが、要望・意見・苦情などはほとんどない。面会が少ない方にも、電話等でお知らせをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映するように努めている。	定期的なミーティングは行っていないが、申し送り時や必要と思ったときに話し合いをする。不定期ではあるが、経営者と職員との意見交換もあり、日勤者の業務が増えたことが理解され、賃金アップにつながった。職員からも「提案が受け入れてもらえ、社長もよく話を聞いてくれ、楽しく安心して働ける職場だと思っている」との話が聞けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働ける様に職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていく事を進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、希望者には研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていく事を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を通じてサービスの向上をさせていく取り組みをしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で十分に時間をかけて本人が困っている事、不安な事、要望などに耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、困りごとや不安なこと要望に耳を傾けながら家族等の関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の一人ひとりの経験を活かし、日常生活でも自分を大切に、共に支えあい感謝する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の方と連携をとりながら、要望をお聞きしたり、協力をお願いしたり、共に本人を支えあう関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	近所の方等の面会がある。窓越しに知人と話しているのを見かけ、招き入れたこともあった。買い物は近所のスーパーに行き、自分で支払いを済ませることができるような支援もしている。家族等に電話をかけた際には、事務室の電話を使って手助けをする。遠方のお墓参りを希望している利用者があり、外出支援が可能か検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士、気の合う方がホームで楽しみ を共有出来るように配慮し、利用者や職員 の語らいが出来る様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した後も家族の方がホーム を気楽に立ち寄れるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	職員は日々の暮らしの中から一人ひとりの 思いや希望、意向の把握に努めている。困 難な場合は、本人本位に検討している。	利用者同士の話を聞き、必要と感じた時には、自室 でじっくりと話を聞いたりすることがある。コミュニケ ーションが取りにくい方には、前後の態度などで気持ち を推し量って対応し、記録に残して職員間で情報を 共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	本人、家族などから時間をかけて聞き取り を行い、馴染の暮らし方、生活環境、病歴な どの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日常生活を記録したり、よりよく過ごすて頂く 為、心身の状態、有する力等の現状の把握 に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、現状に即した介護計画を作 成するよう努めている。	24時間アセスメントシートを使用して利用者の状態を 把握し、家族の意向を確認しケアプランを作成。半年 ごとに担当者会議、モニタリングを行って次の計画に つないでいる。日々の活動や支援内容をケース記録 に記載している。	具体的な支援プランと日課計画表を 作成しているので、プランに沿った支 援と記録になるように、記録の方法や 様式について職員間で話し合っていく ことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や築いたことを出来るだけ細か く記録し、職員間で情報を共有しながら実 践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれた ニーズに対応して、柔軟な支援やサービ スを受けられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	車椅子でも5分以内の所にある神立コミュニティセンターやスーパーマーケットで地域の方との触れ合いや買い物出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については本人及び家族等の希望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医院からの月2回の訪問診療を受けている方、職員同行で病院を受診する方がおり、薬が変わったり変化があったときにはその都度家族に電話等で連絡をしている。歯科が隣接されており、職員が同行して受診し、入れ歯を入れた方もいる。口腔ケアは、定期受診する利用者もいるが、職員の指導で自力で行っている方が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、受診時に看護師等に伝えて利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院された際、安心して治療出来るように又、出来るだけ早く退院できるように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては利用者の方と折に触れて話し合っています。長期入院についても本人、家族と話し合い、事業所で出来る事をよく説明し、出来るだけ本人の意向に合わせた支援が出来るように努めています。	看取りまでは行っていないが、本人の意思を尊重し、ギリギリまで支援することがある。食事が取れなくなったり、点滴などの医療行為が必要になった時に、医師や家族と話し合って病院と連携した支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救命講習を受け、急変や事故発生に備えている。マニュアルを作成し、実践力を身に付けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今までも年、2回避難訓練を行ってきました。昼夜を問わず利用者や職員が避難できる方法を身につける様努めています。	避難経路について、重点的に訓練を行い、利用者の状態と意見を踏まえて、居室からの経路を定めた。夜間は1人勤務となるため、隣接して住む経営者、高齢者住宅との協力関係を密にし、高齢者住宅の利用者に見守りを願っている。避難口は段差があるので、簡易スロープを用意している。防寒対策も含めた備蓄品を準備、管理している。持ち出しグッズもすぐに用意できるようにしている。夜勤者がいる時間に夜間想定訓練を再度行いたいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の名前は『さんづけ』を基本としている。入浴は一人ひとり個別に支援し、他の利用者とは合わないよう工夫している。部屋の名札を外し、面会簿は個室、写真掲載の同意などプライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝、起きて、その日に着る物を選んで頂き、時間がかかっても待つようにするなど自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、身に付ける物は出来るだけ入居者の方に選んで頂ける様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き出したり、職員と一緒に食事の準備をしたり、食事のかたづけをしている。	調理を主に担当する職員がおり、栄養士が作った献立を基本に、利用者の好みを聞いたり、残したものの確認して作っている。野菜中心のおかずで血糖値が下がった方や、歯がない方の為に柔らかくして提供したところ食事量が増えたなど、個々に配慮した食事支援が行われている。野菜の収穫や下ごしらえ、お茶出し、車いすの方の下膳を手伝う利用者もいる。年間計画に外食を取り入れていたが、新型コロナウイルス感染予防の為外食はせず、出前を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりにあわせた調理方法、摂取カロリー、一日の必要水分量確保等、一人ひとりの状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアするよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を記録にとり、毎日の排泄パターンを把握し、リハビリパンツ、オムツ、パットなどは入居者一人ひとりにあわせて使い分けている。	トイレでの排泄は大切と考えて声かけ誘導を行い、日中、おむつからリハビリパンツ使用に改善できた例がある。夜間、ポータブルトイレを利用される方が数名いるが、安定性の高いものを購入し、安全な排泄を心掛けている。排便は記録をとり、便秘への対処は早めに行う。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者一人ひとりの排泄記録を取り、便秘にならないように個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの健康状態を見ながら毎回入浴して頂ける様支援している。時には入浴日でなくても入浴して頂くこともあります。	週3回、午後入浴を基本としているが、汚れたときはその都度シャワー浴などで対処している。しょうぶ湯、ゆず湯など季節の湯を楽しみ、特にゆず湯は好評である。できる方は自分で着替えを用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、眠れない方には散歩をして頂いたり、主治医の先生と相談して安心して気持ちよく眠って頂くように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの使用している薬の目的や副作用、用法、用量について理解しており、変化があったときは主治医の先生に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を持っていただいている。例えば台所のお手伝い。花や野菜の水やりなどをして頂ける様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の健康状態、天候、等を考慮し、神立コミュニティーセンターやスーパーへの買い物、散歩などに出かけられるように支援に努めている。	コミュニティセンターや高齢者住宅に散歩に出かけたり、スーパーで買い物をしたりと、外にでる機会は多く、花見や外食などのドライブも年間行事として計画していた。現在は、新型コロナウイルス感染予防の為、庭の畑に出たり、室内の回廊式の廊下を歩いている。花見に行かれなかったことを利用者が残念がっており、職員が切ってきた桜の木をホールに飾り、花見を楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の方と相談し、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される入居者の方には自由に電話をかけて頂いている。手紙についても希望される方にはやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間に花を飾ったりして生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	『笑いのあるホーム』にしたいと考えており、ボランティア訪問が受け入れられない状況でも、職員との会話を増やし、笑いが絶えないよう配慮している。庭の花や野菜が見えるホールでテレビを見たり、体操したり、作品を作るなどして過ごしており、訪問調査時は願い事を書いた短冊が下がった七夕飾りが季節を感じさせていた。ホールや廊下には、利用者の作品が掲示され、テーブルには季節の花が飾られるなど明るい雰囲気であった。猫と犬を飼っており、利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで気の合った入居者同士で新聞を読んだり、おしゃべりを楽しんだり、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、居室の家具は使い慣れたものを持ってきて頂き、本人の希望を聞きながら整理、補充を行っている。	押入付きの畳の部屋が多い。介護用ではないベッドを利用している方もいる。テーブルやテレビなどを置き、思い思いの部屋となっている。仏壇を置き、月1回は職員が付き添ってお線香をあげられるよう支援している方がいる。自分で掃除機をかける方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの力量に応じて安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームASUKA

## 目標達成計画

作成日: 2020年8月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	具体的な支援プランと日課計画表を作成しているが、プランに沿った支援と記録になる様に、記録の方法や様式について職員間で話し合っていく。	支援プランと日課計画表に沿った支援と記録になる。	職員間で話しあい、支援プランと日課計画表に沿った支援と記録になる。例えば支援プランを毎日の記録とセットにしておき常に目につくようにしておく。	6ヶ月
2	6	身体拘束に対する様式について改めて検討し、協議内容なども記録し、職員の意識の向上を図る。	職員間で身体拘束に対する意識の向上を図る。	早速、職員間で、拘束について話し合い、様式についても検討し、協議内容など記録する。現在、夜間異色行為のある方に対するミトン使用については定期的に職員間で協議し、記録する事とします。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。